

登録コード	L1234400	開講年度	2026				
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション基幹演習Ⅳ						
英文授業名	Art Communication: Basic Seminar III						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	芸術文化の歴史の多様性を理解し、その価値や意義を多元的に 判断することで、創造的な未来を切り拓くことができるように なる。		
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現で きる高度なメディアリテラシー			⇔	高度なメディアリテラシーをもって、芸術文化の情報を適切に 集約・分析・表現できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	芸術文化の多様性を理解し、その価値や意義を多元的に判断す ることができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	芸術コミュニケーションを支える基本的なアトリテラシーを、作品分析と文献読解を通して錬成する。 発表形式の授業形態をとることで、受講者個々のプレゼンテーション能力を高める。 今年度は「現代美術の諸相」をテーマとし、文献精読と作家作品研究を並行しておこなう。また、「工芸 の五月」に参加し、芸術文化の可能性と諸問題を実践的に学ぶ。 多様な事例、観点の関連や相違を吟味しつつ、芸術研究の可能性について検討したい。 授業の一部は、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして進められる。 なお、地域における芸術実践の紹介・検討は、信州アーツカウンシルの協力を得て実施する。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 文献講読と討議（表現、創造性について1） 3. 文献講読と討議（表現、創造性について2） 4. 文献講読と討議（ジャンル、メディウム1） 5. 文献講読と討議（ジャンル、メディウム2） 6. 文献講読と討議（制度・社会1） 7. 文献講読と討議（制度・社会2） 8. 文献講読と討議（制度・社会3） 9. 文献講読と討議（キュレーション1） 10. 文献講読と討議（キュレーション2） 11. 実践例調査（概観） 12. 実践例調査（企画準備） 13. 実践例調査（企画運営） 14. 実践例調査（討議） 15. まとめと 15 分の授業アンケート 期末試験の有無 なし						
成績評価の方法	毎回の授業時の発表や授業後のコメントシートおよび小レポート50％、企画の実施に直接関わる活動20％、まとめレポート30％の比率で評価する。						
成績評価の基準	発表およびレポート等について、 授業中の指示にしたがって、基本的な情報をまとめていれば「水準にある」。重要語句・重要作例に対す る理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上 にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考を進めて、説得力ある自説を展開してい れば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	事前学習：文献精読や作家リサーチを求める。事後学習：授業内容を踏まえたレポート等を求める。						
履修上の注意	関連文献の精読を求める。 情報の収集力が問われる。各地の美術館・ギャラリーを活用するように。 実践例調査として「工芸の五月」（https://matsumoto-crafts-month.com/）の参与観察を予定。アーティ ストトーク、ワークショップ等のイベントを企画運営する。日程・詳細についてはガイダンス時に説明・ 調整する。 この演習の成果を活かして後期の芸術コミュニケーション発展演習Ⅳで実施する事業のコンセプトや内容、 方法を設定する。できるだけ両演習の履修をお願いしたい。						

質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp (a)は@
教科書	なし。必要な資料は配布、もしくは入手方法を指示する。
参考書	末永他『カラー版 20世紀の美術』美術出版社 2013年 フリーランド『でも、これがアートなの』ブリュッケ 2007年 ダントー『アートとは何か』人文書院 2018年 西村清和編『分析美学基本論文集』勁草書房 2015年 山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年 小松田儀貞編『社会化するアート／アート化する社会』水曜社 2022年